

〈研究主題〉 児童生徒の学びをつなぐ授業づくり
～児童生徒の「思い」や「願い」を踏まえて（1年次/2年計画）～

本研究では、児童生徒一人一人の「思い」や「願い」を踏まえ、教科等の視点から「何を学ぶか」を整理し、学習評価の視点から「何ができるようになるか」を明確にして、児童生徒の学びをつなぐ授業づくりに取り組んでいます。今回は、中学部の全校授業研究会について紹介します。

● ● ● 中学部1年 生活単元学習 「中1カフェⅣ～先輩を招待しよう～」

授業について

カフェの開店に向けた活動の中で、話し合いや制作、接客練習などを通して、自分の役割を果たすことの大切さに気付いたり、カフェと一緒に開店させる友達やカフェの客など自分以外の人のことを考えて活動したりする姿を目指している。本単元は、生徒から要望のあった中学部2年生を招待し、先輩に喜ばれるカフェにするための「いいね！ポイント」を見付けながら、キッチン、ホール、デザインの3グループに分かれて開店準備をした。主に扱う教科は、「中学部職業・家庭科【職業分野】A職業生活 ア働くことの意義」「中学部社会科 ア社会参加ときまり」である。

抽出生徒Bについて

- ・人の意見を受け入れることが難しくなると、反対の意見を言って集団を混乱させたり、不安にさせたりすることがある。
- ・リーダーになりたい思いがあるが、リーダーの役割への理解が不十分なところがあり、自分本位に進めてしまうことがある。



授業研究会から

授業研究会では、参観者が見取った抽出生徒の言動を基に、互いの解釈を共有し合って、「次につながるキーワード」をまとめます。また、授業全体を通して学びをつなぐために有効だった手立てと、今後の授業等につなぐ意見交換を行います。 ※以下各グループのワークショップからの抜粋

○「次につながるキーワード」

- ・ 試行錯誤する経験、機会
- ・ 経験（校外学習、国語・数学等）→試行錯誤による再評価
- ・ 考えを深める二度目の問い
- ・ 分かりやすい問い掛け→考える時間と安心感
- ・ 安心感がもてる活動、スモールステップ
- ・ 積み重ねると少し難しい課題



○「学びをつなぐために有効だった手立てと今後の授業につなぐキーワード」

- ・ 自分の意見が形になる経験が自信を育む
- ・ 安心して考えられる学習環境
- ・ 関わりの必然性
- ・ 数学の生活への応用
- ・ 気付きを促す視覚支援の充実
- ・ ペアでのレシピ作成と試行錯誤

○授業全体について

- ・「先輩に喜ばれるカフェを開く」ことを生徒の共通目標として授業が展開されていた。
- ・グループ活動では、一人一人に役割が設定されていた。自分の役割を果たすことがグループの責任を果たすこと、それがカフェ全体の成功につながっていくことを理解することで、責任感や「人の役に立っている」という有用感にもつながっていく。カフェ運営を通して、このように学びをつないでいけるよう、長期的な見通しをもった単元計画がなされていた。
- ・抽出生徒のグループでは、「同じ量・同じ味の飲み物を提供する」ことを目標としていたが、全体の目標は「先輩が喜んでくれる」ことにある。「先輩が喜ぶ」ポイントやコンセプトを確認したい。自分の好みに合わせてカスタマイズができる飲食店の提供の仕方なども参考になるのではないかな。
- ・生徒の思いを授業に生かすことについて。生徒の思いが至る場面に散りばめられていた。生徒に経験させたい学習を単元計画に沿って進めることも大切だが、単元目標からぶれずに、生徒の「もっとやってみたい」「こうすればよくなる」という思いや発信を取り上げ、試してみるなど、よい意味での方向転換も時には必要ではないかな。

○抽出生徒について

- ・グループ全員が一人でレシピどおりの分量で飲み物を作れることが意図としてあった。ペアの友達が一人で作れるよう、自分の成功経験を基に、計量カップの目盛りを見やすくする工夫を伝える場面があった。
- ・ペアの友達が多めに注いでしまう場面があったが、Bが気付いてやって見せたり、やり直しを促したりしてうまくできるような関わろうとする姿も見られた。
- ・友達の取組を見守る場面が多かったが、友達のつぶやきを聞いて活動する姿も見られた。やり取り、連携等グループで取り組むよさや、育てたい関わりを整理しておけるとよい。

○学部研究について

- ・生活単元学習の意義に留意した上で、学部研究である「職業・家庭科」を中心としながらも各教科等をどのように合わせて指導していくのかを確認したい。
- ・「なぜこの教科の目標や内容を生活単元学習で扱うのか」「集団で学ぶことでどんな効果があるのか」を整理しながら研究を進めていってほしい。
- ・子どもたちが先生方と安心して、楽しみながら学ぶ姿が印象的だった。本時の目標にもあるように、気付いたことを友達に伝え合い、友達の考えや思いを聞きながら、自分たちの学校生活をよりよくしていく集団・授業づくりを今後も期待している。

授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと生徒の変容）

○前時に習得した内容を実際に生徒だけで取り組む

次時のコーラと同じ作り方でオレンジジュースを作る活動では、最初から二人で作ることを提案し、教師は見守る姿勢をとった。前時と同じワークシート形式のレシピを用意した。作ったことのあるコーラと同じ割合の配合だったため、二人とも見通しをもって活動に向かった。前回と同じようにBが数字を読み上げ、ペアの友達が書くという役割分担ができていた。実際にオレンジジュースを作るときに、ペアの友達に対して先に作るかどうか聞いてから順番に作っていた。一人でできる内容であっても、教師の顔を見て「これでいいよね」と確認できることや、見守ってくれているということが安心感になっているようだった。

後日、欠席していた別の友達に、レシピを丁寧に教えていた。その友達はすぐに「分かった」と理解したことをB伝えた。

カフェの開店日は、3人で役割分担をして飲み物とお菓子の準備をした。それぞれが飲み物を作り、滞ることなく用意できた。ジュースを作るところを時々見守る姿や、用意できた飲み物の受け渡しで友達と声を掛け合うなど、自信をもって自分の役割を行う姿が見られた。

